【国東市長賞】

私たちにとって身近な税金

国東市立国東中学校　三年　寺下　紗羅

税金と聞くと、中学生にはあまり関係がないようなイメージでした。でも、調べてみると私たちの生活にも深く関わっている事が分かりました。

税金とは、主に年金や医療といった社会保障、そして道路の整備や警察、消防などの公共サービスに使われています。税金は、日本国内に住むすべての人が収入や所有物、消費する金額に応じて負担します。

私の将来の夢は助産師になることです。そこで私は社会保障に目を向け調べてみました。病院では医師や看護師だけでなく、救急車や予防接種、乳幼児健診など税金で支えられている制度がたくさんあることを知りました。私たちはけがをした時や病気になった時病院に行きます。医療費は医療保険という制度によって、実際にかかった金額よりずっと安い金額を支払っています。また国東市では、０歳から満18歳の通院・歯科・入院・調剤のすべてにおいて自己負担額が無料となっています。このような制度がある事で子育て世代や多くの人が安心して生活できていると感じました。そして税金は介護費や年金にも使われています。介護は介護保険料だけでは足りない分を税金で支えています。例えば、高齢者が利用するデイサービスや介護をする家族への支援です。少子高齢化の中要介護者の家族の負担も支えていると思いました。年金は主に現役世代が納める保険料で成り立ちますが国民年金の約半分は税金で支えられています。税金が使われることで、高齢者や障害を負った人たちの生活を支え、家族を亡くした人への遺族年金などの制度を支えています。

もしも税金が無くなれば、安心して病院に行けなかったり、困った人を助けるしくみが十分に整わなかったりする可能性があります。税金は目に見えないけれど、私たちの生活を支えている存在なんだなと感じました。これから大人になっていって税金を納める立場になったら、その意味を理解して、社会を支える１人として責任を持っていきたいです。そして将来助産師として多くの人を支えられる人になりたいです。